

# 京丹波町学校施設長寿命化計画（概要版）

## はじめに

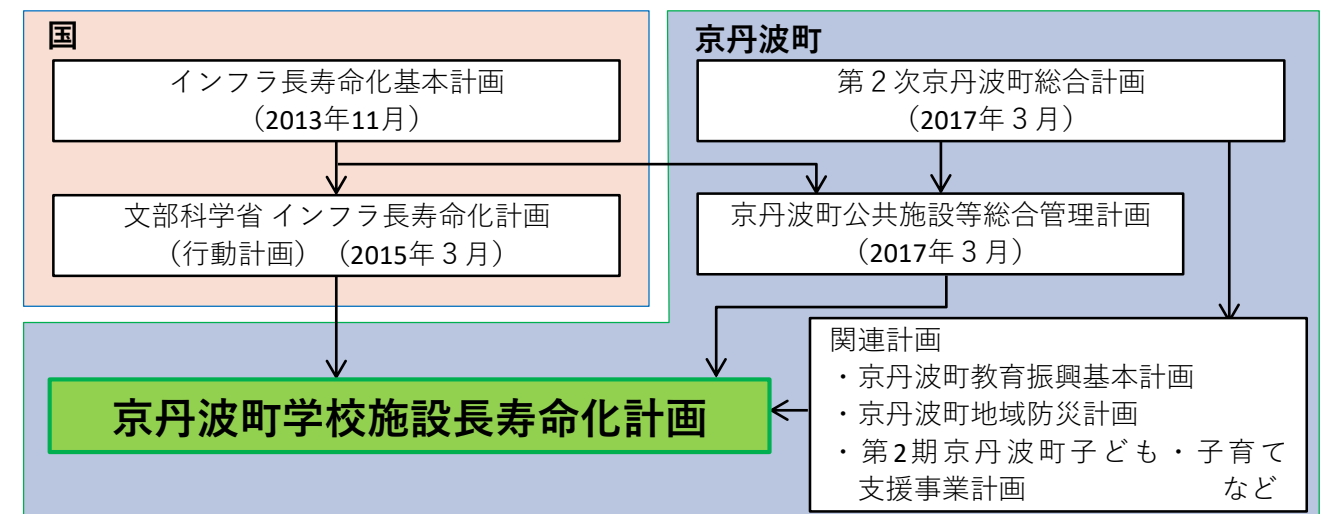
### ■ 背景と目的

本町では、小学校5校、中学校3校、給食センター3箇所、幼稚園1園の計12施設の学校施設を有しています。これらの施設のうち、築30年以上が約5割、築20～30年が約4割と、全体の9割が築20年以上となっています。そのため、今後、学校施設の老朽化が進むことで、一斉に改修や更新の時期を迎えることが想定されます。また、学校に求められる機能は多様化し、新たな学習内容や形態への対応、バリアフリー化、新型コロナ対策などの衛生面の強化、災害時の避難所としての機能確保、環境負荷の低減などの機能向上が求められています。

国では、これらの課題に対応するため、公共施設等の維持管理・更新を着実に推進するための中長期的な方針を示し、各自治体に公共施設等総合管理計画の策定を求めています。本町でも、2017年（平成29年）3月に「京丹波町公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設全体についての整備の基本方針と目標を定め、計画の推進に取り組んでいるところです。

このような背景のもと、学校施設の維持・更新に長寿命化の考え方を取り入れ、施設機能を維持しながらこれまで以上に長く使い続けることで、財政負担の軽減とコストの平準化を図ることを目的として、「京丹波町学校施設長寿命化計画」を定めることとします。

### ■ 計画の位置づけ



### ■ 計画期間

計画期間：10年間 令和4年度（2022年度）～令和13年度（2031年度）

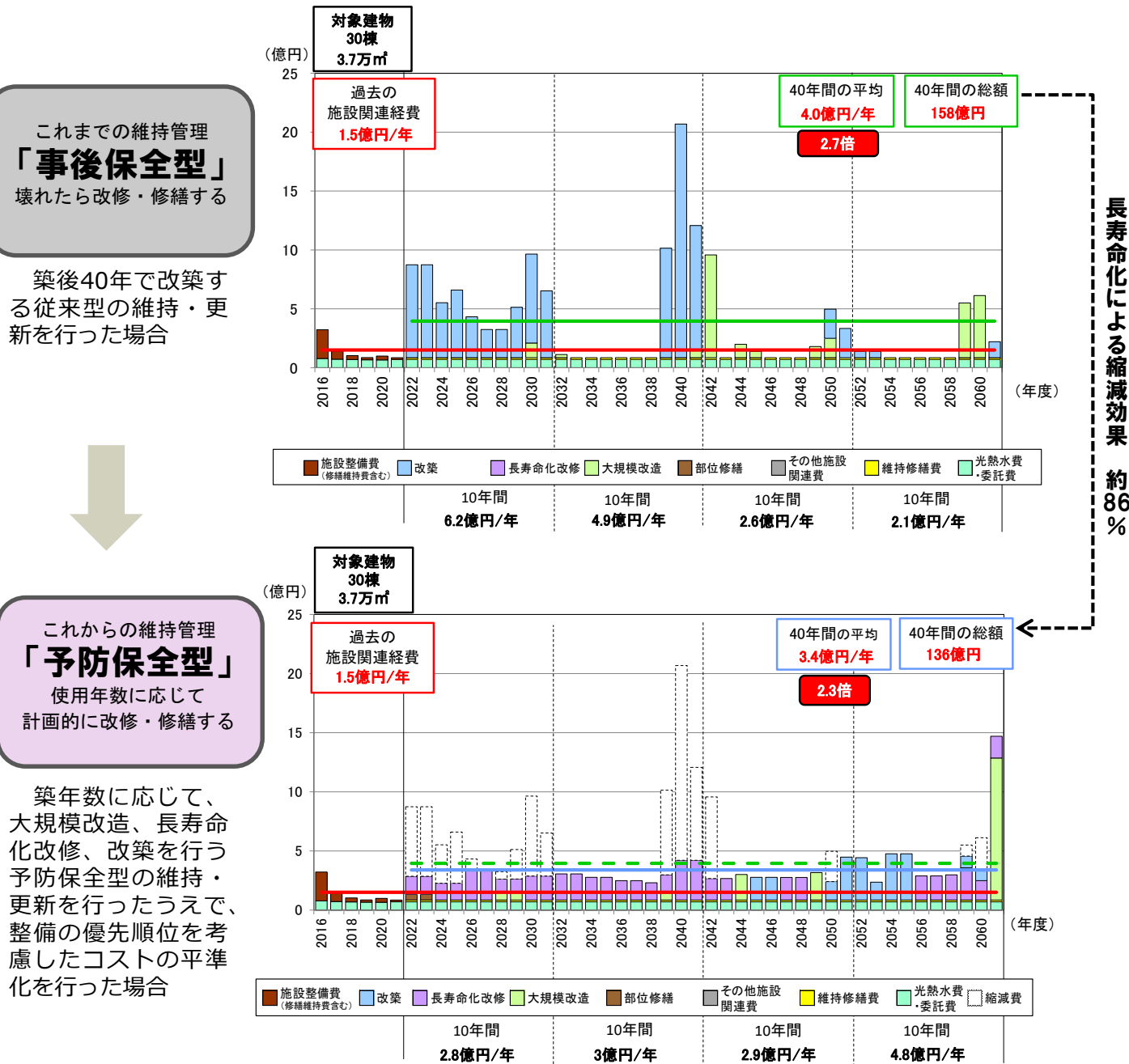
### ■ 対象施設

NO	分類	施設名称	所在地
1	小学校	竹野小学校	高岡高岡23番地
2		丹波ひかり小学校	曾根宮ノ浦戸麦54番地
3		下山小学校	下山上藤ヶ瀬16番地
4		瑞穂小学校	橋爪松山118番地
5		和知小学校	本庄安田7番地
6	中学校	蒲生野中学校	蒲生ハツ谷62番地
7		瑞穂中学校	大朴段ノ垣内6番地
8		和知中学校	市場丸ヶ野4番地
9	給食センター	学校給食センター（丹波）	曾根宮ノ浦戸麦54番地
10		学校給食センター（瑞穂）	橋爪松山157番地
11		学校給食センター（和知）	本庄安田7番地
12	幼稚園	須知幼稚園	須知藤ノ森34番地

## 長寿命化の実施計画

予防保全型の維持・更新コストは、総額約136億円、年平均約3.4億円/年と試算され、従来の事後保全型による40年間の総額約158億円と比べ、約86%のコスト削減効果がみられます。

また、過去の施設関連経費（約1.5億円/年）と比べて、約2.3倍となるため今後の学校の統廃合や維持・更新の進捗状況をふまえ、コストの削減や整備時期の前倒しを検討していくものとします。



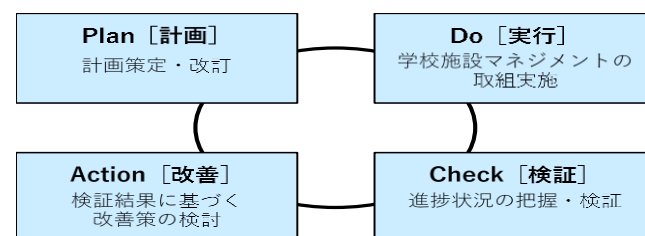
## 長寿命化計画の継続的運用指針

今後の継続的な運用指針について、以下の取組を推進します。

### 情報基盤の整備と活用

### 推進体制等の整備

### フォローアップ



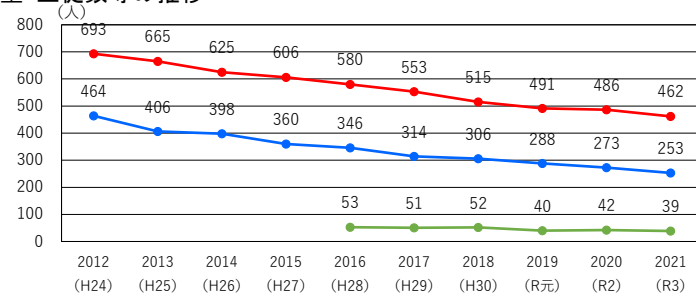
京丹波町学校施設長寿命化計画 概要版 令和4年3月 京丹波町教育委員会  
〒629-1192 京都府船井郡京丹波町本庄ウエ16番地 TEL 0771-84-0028

## 学校施設の状況

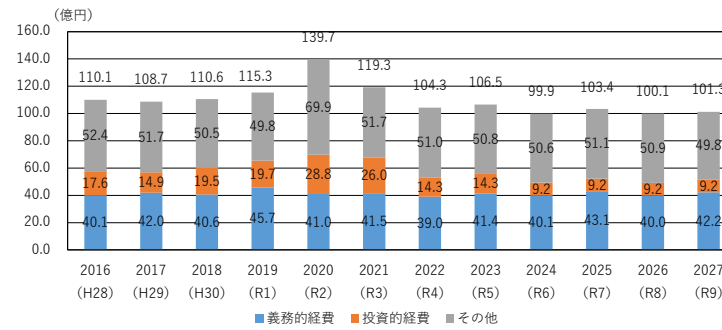
### ■ 児童・生徒数の減少

児童・生徒数は、2021年（令和3年）現在、小学校462人、中学校253人、幼稚園39人が在籍しています。2012年（平成24年）と2021年（令和3年）の児童・生徒数を比較すると、小学校では693人から462人となり約33%減少、中学校でも464人から253人となり約45%減少し、この10年間で大幅に減少しています。

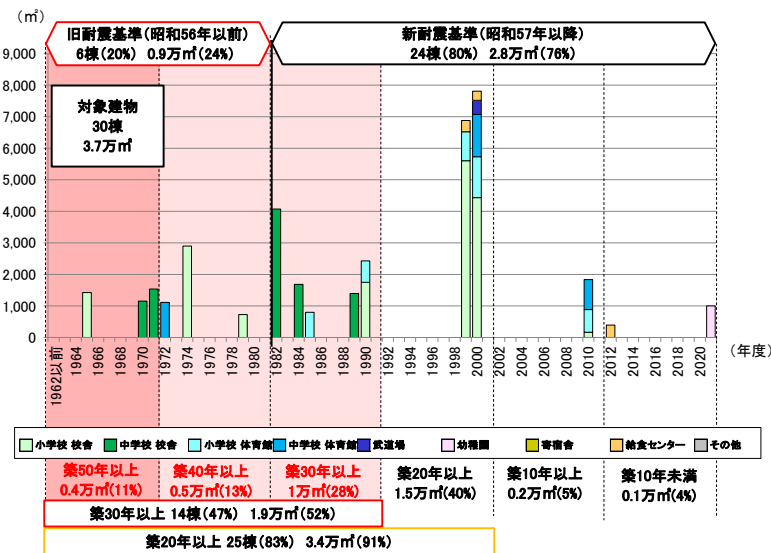
■ 児童・生徒数等の推移



■ 財政見通し



■ 学校施設の経年別保有量



### ■ 学校施設の老朽化

延床面積を建築年度別にみると、築20年以上が約91%を占めており、なかでも築20年以上30年未満が40%と高い割合を占めています。これらの施設については今後の老朽化対策が急務となっています。

### ■ 災害発生時の安全性の確保

学校施設はいずれも指定避難場所・指定避難所に指定されていますが、そのうち、いくつかの施設は洪水や土砂災害の危険性のある区域に立地しています。

## 課題

学校規模の適正化

施設の長寿命化と計画的な維持管理

災害時の安全性の確保

## 学校施設のめざすべき姿の設定

1. 安全性・快適性

2. 学習活動への適応性、環境への適応性

3. 地域の拠点化

## 学校施設の規模・配置計画等の方針

学校施設の規模・配置については、「京丹波町公共施設等総合管理計画（2017年（平成29年3月））」に基づき、以下のとおり設定します。

分類	規模・配置計画等の方針
小学校	・将来的に児童数の減少がさらに進展した場合に、校舎の老朽化の状況や地域の意向等を踏まえて統合等を検討する。 ・瑞穂地区・和知地区は、校区が広大なため、これ以上の統合再編は現実的ではないため、将来的に施設の更新等を行う際に、児童数の減少を踏まえ、施設規模の見直しを検討する。
中学校	・校区が広大なため、統合再編は現実的ではないため、将来的に施設の更新等を行う際に、生徒数の減少を踏まえ、施設規模の見直しを検討する。
給食センター	・小中学校の統廃合や児童・生徒数の著しい減少等があった場合は、施設の集約・統廃合を視野に、町内全体で適切な配置を検討する。
幼稚園	・老朽化が進んでいる須知幼稚園と上豊田保育所の2施設を統合し、「幼保連携型認定こども園」として、適正規模に応じた施設の整備を図る。

## 学校施設の整備の基本的な方針等

施設の維持管理方法には、「事後保全型」と「予防保全型」の2種類が挙げられます。

「事後保全型」は、劣化や破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行う維持管理手法で、施設の寿命を縮めるとともに、破損等の影響により修繕の規模が拡大する場合があります。修繕期間の長期化や財政負担の増大を招くおそれがあります。

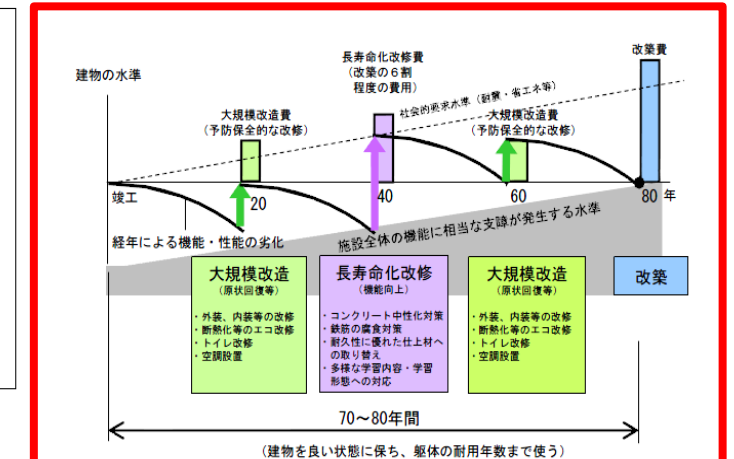
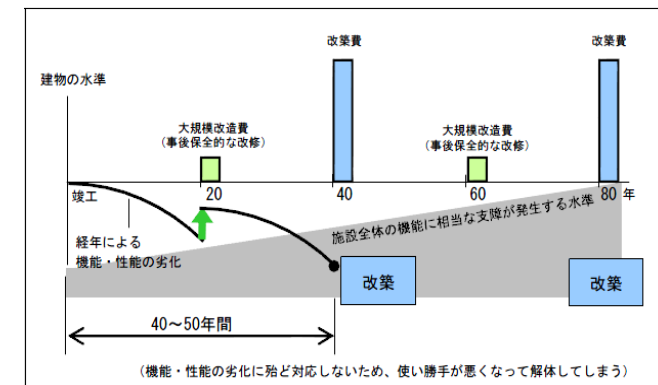
「予防保全型」は、劣化が軽微である早期段階から予防的な補修やメンテナンス等を実施し、機能の保持・回復を図る維持管理手法で、「従来型」と比べて施設を長く使用することができます。

今後は、これまで基本としてきた「事後保全型」から「予防保全型」へと転換し、施設の長寿命化と財政負担の軽減・平準化を図ります。

### ■ 事後保全型から予防保全型への転換のイメージ

従来の維持管理  
「事後保全型」  
劣化・破損発生後に修繕する

今後の維持管理  
「予防保全型」  
計画的な補修等の実施により  
施設の長寿命化を図る



資料：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」より作成